富士山・東京 発 世界平和プロジェクト

1000万人の稲づくり一鉢運動！

はじめに

日本は古来より「持続型・共生型の稲作漁労文化」を築いてまいりました。
稲作漁労文化は「自然と人と人々が和して共に生きる」文化です。

今、世界には根強い対立と深い悲しみの中に暮らす人々がいます。
気象の異常も日常化し、人口も増加の一途をたどっています。
今こそ、稲作漁労文化の理念が重要になってくるのではないでしょうか。

当会事業の根幹は、日本の伝統文化の源流である「稲作」にあります。
毎年５月頃にはお田植え祭を、秋には収穫祭を開催し、
日本人が古来より受け継いできた自然と共に生きる生き方、
そして田んぼがもたらしてくれる恵みと役割について親子で学び、
体験できる場になるよう取り組んでまいりました。

そこには各国の駐日大使館より大使・ご家族、職員の皆様が大勢ご参加くださり、
国や民族・文化の垣根を超えて、皆で仲良く田んぼに入りました。

そうして実った玄米が「玄米粉」になりました。
ウクライナ、ヨーロッパ、中近東、シリア、アジア、アフリカ諸国など、
支援が必要な方々へ届くように取り組んでまいります。

趣旨

小さな種籾に世界平和の祈りを込めて、自宅に一鉢お田んぼをつくりませんか？
自然の豊かさと、自然と人の絆を象徴するお米づくりを通して、
「自然と人と人々が和して共に生きる」生き方について考え、
行動するきっかけになれたら…。

**この企画は、世界平和人道支援に繋がる重要なプログラムとして取り組んでおります。
一鉢でできたお米の半分を、世界平和人道支援のためにご寄付いただけますと幸いです。
皆様よりお寄せいただきましたお米は、玄米粉に加工して、
支援を必要とする世界中の方々へお届けさせていただきます。**

小さな一鉢お田んぼで育てた稲が、世界へ拡がっていきます。
この一鉢から、世界平和の「和」の波が世界中に拡がってゆくことを願ってやみません。
このかけがえのない生命あふれる小さな地球が、「和」の想いで遍く包み込まれますように…。

成長記録、募集！

一鉢お田んぼの成長記録を、お写真や動画でお知らせください。お寄せいただいた情報は、地球フェスタ公式 HP や SNS でご紹介させていただきます。
送付先：festa@chidama.net

お米のご寄付 送付先

一鉢でできたお米の半分を世界平和人道支援のため、ご寄付いただけますと幸いです。
〒403-0022
山梨県南都留郡西桂町小沼 1598-1
FUJISAN 地球フェスタ WA 実行委員会 宛

地球フェスタ HP　不二阿祖山太神宮 HP　株式会社 天元 HP
地球フェスタ instagram　不二阿祖山太神宮 instagram　一鉢運動 instagram

みんなの FUJISAN 地球フェスタ WA 2023 富士山・東京【お問い合わせ】E-mail：festa@chidama.net
【主催】FUJISAN 地球フェスタ WA 実行委員会【後援】外務省 / 文部科学省 / 農林水産省 / 環境省 / 豊島区 / 稲城市
【協賛】秋月農園 / うまかもん農園 / 和醸 岩本園 / 他【協力】有限会社 地球

バケツ稲づくりマニュアル

～観察しながら稲を育ててみよう！～
（改訂三版）

用意するもの
・ポリバケツ
・土
・種もみ・肥料

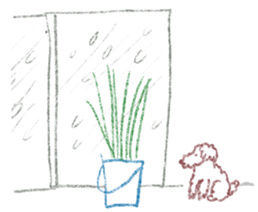
バケツ稲づくりカレンダー

5月	6月	7月	8月	9月	10月
種まき	分けつ	分けつがすすむ	穂が出る	お米ができる	❶ 稲かり ❷ 脱こく（籾をはずす）

上手につくるポイント

❶ 台風対策

台風などの強風の時はバケツ稲を屋内の冷房が効いていない場所に移動させましょう。



❷ スズメ対策

稲の周りに園芸用の支柱をたて、隙間がないように網をはります。

❸ 病害虫対策

はん点などが出た病気の葉や、害虫はその場で取りのぞき、病気の稲は他の稲と離して育てます。バケツの水にボウフラが発生した時は、水と一緒に流し出して新しい水に入れ替えます。

❹ 水温管理

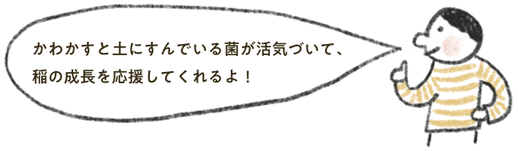
水は 20 ～ 30℃が適温です。水温が高くなりすぎる場合は、水を入れかえましょう。

0 土の準備

土は、「黒土６、赤玉土 (中粒)３、鹿沼土 (小粒)１」の割合で用意し、ビニールシートなどに広げて乾かして、肥料を混ぜます。

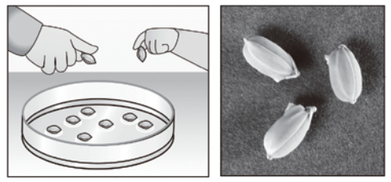
●使用する土の種類と注意点●

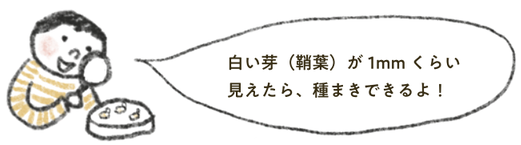
①黒土の販売がされていない地域で黒土のかわりに荒木田土を使う場合
→赤玉土を 2、3 割混ぜてください
②荒木田土もなく培養土を使う場合
→有機肥料の使用がない、または少ないものを選んでください。
③土の説明書き肥料入りとあるもの
→最初は肥料を入れないで、中干し終了後に肥料を入れてください。
※肥料は育てる環境に合わせて個人のご判断にお任せします。



1 芽出し

シャーレなどの浅い容器に種もみがひたるくらいの水を入れます。水にひたした種もみは、室内のあたたかい場所におきましょう。種もみに酸素がじゅうぶんに行きわたるよう、水は毎日とりかえます。



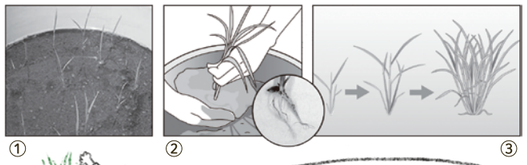


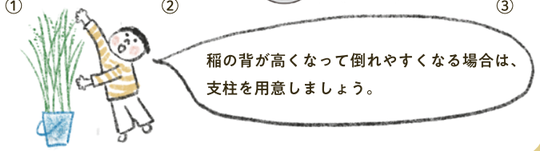
2 種まき

水とよく混ぜて泥になった土をいれたバケツに、①表面に水がたまらないくらいの水を入れます。②少し離して種もみをまき、③深さ 6 ～ 7mm(種もみふたつ分) ほど指で押し込み、土をかぶせます。土がかわいたら、土の表面が湿るくらいに水をまきます。種もみをスズメに食べられないように、葉が 5cm くらいのびるまでザルをかぶせます。

3 苗の移しかた

①葉が 3 ～ 4 枚にふえたら、②根ごとやさしく苗をぬいて茎が太く育ちのよい苗を 4 ～ 5 本にまとめ、バケツの中心に、2 ～ 3cm の深さに植えます。そこに水を1cmの深さに張り、根付いたら5cmの深さに水を張ります。③苗を移しかえた後から茎が増えていきます。このような稲の枝分かれを「分けつ」といいます。





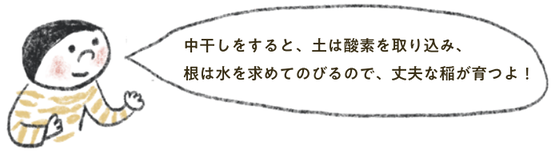
4 中ぼし

稲の茎数が 20 本、草丈が 40 ～ 50cm 程度になったら、1 ～ 2 日ほど水をぬき、雨が入らない軒下などに移動させます。土とバケツの間にすき間ができたらバケツに水を 2cm 入れ、なくなったらまた 2cm 入れます。4 回繰り返した後、5cm の水を入れて保ちます。

●中ぼしの注意点●

・中ぼしの回数は１回です。
・雨が入らず風通しの良い屋外に移してください。

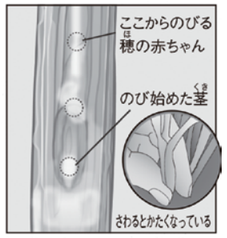
※狭い容器のバケツ稲での中ぼしは、乾かし過ぎに注意が必要です。葉が細くまるまって針状になったり、色が黄色くなってくると水分不足です。すぐに水を入れて中ぼしを終了してください。気温によっては 1 日で枯れる場合がありますので、よく観察しながら行いましょう。

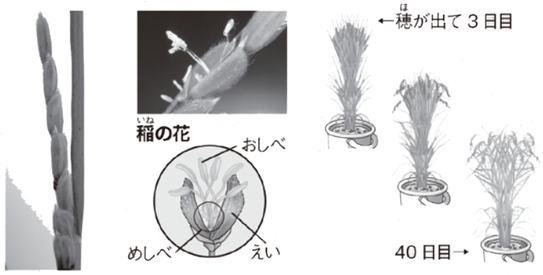


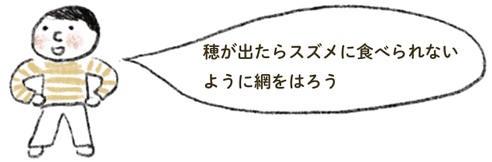
5 お米になる

①穂の赤ちゃん (幼穂) ができると、茎がふくらみ、約 20 日で穂がでます。②つぼみがわれて花がさきます。おしべの花粉がめしべにつき、受粉します。③もみの中のでんぷんが固まって重くなり、穂がたれてきます。

※茎がふくらみ始めてから穂が出るまでは 5cm の水を保ちます。穂が出た後は 3cm の水を保ちます。



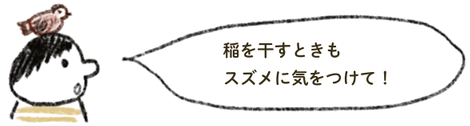


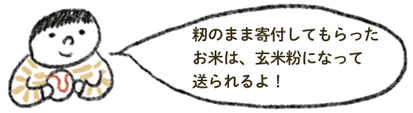


6 稲かり

稲かりの目安は、穂が出てから 40 ～ 45 日ごろ、穂の約 90%が黄金色になったころです。①その 10 日くらい前に水をぬき (落水)、②かわかしてから稲をかります。③かりとったら穂を下にして根元をしばり、風通しがよい場所で 10 日ほどほします。

①落水する　②稲をかる　③稲をほす



7 お米にする

脱こく (穂からもみをとる)…茶わんや牛乳パックの中に穂を入れて引っぱると、もみが容器の中に残ります。
ご寄付いただくお米は籾のままでお送りくださいますようお願い致します。